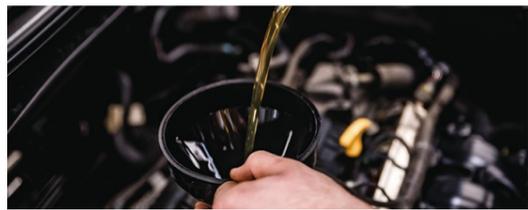


ハイブリッド車だからこそ
オイル交換を！

自動車にはガソリン車、ハイブリッド車(HV)、プラグインハイブリッド車(PHVまたはPHEV)、電気自動車(EV)などがあります。この中でエンジンがあるのはガソリン車、HV、PHV(PHEV)です。エンジンがあるという事はオイル交換やメンテナンスが必要なわけです。ハイブリッド車はモーターで走行するのでオイル交換は不要と思っている方も多いようですが、実はハイブリッド車だからこそオイル交換はマメにした方が良いのです。



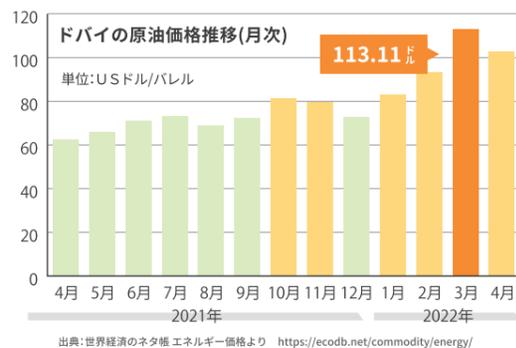
HVはエンジンを回して発電・動力にしているため、オイルはその度汚れます。さらにアイドリングストップ機能でエンジンの停止、始動を繰り返し制御しているため、オイルに対する負担が大きいと言われています。PHVの場合はいつも充電をして、できる限りEVモードで走ろうとすると、その間エンジンはいつでも始動できるようにガソリンやオイルは入ったままになります。ガソリン車は目に見えてオイルの汚れは管理しやすいですが、PHVのオイルは汚れてないと思っても実は劣化しているという事があります。やがてガソリンは古くなり、オイルも劣化して燃料系が詰まるなどの不具合が起こります。

これを踏まえ、一部のPHVでは一定時間エンジンをかけないでいると強制的にエンジンを始動する機能を備えているものもあります。PHVは走行距離よりも時間軸でエンジンオイルを管理して交換していくのが理想的です。

世界的な原油価格高騰の中で
今できること。

現在の様々な物価上昇とともにオイル価格も過去にない値上りを続けています。エンジンオイルは「ベースオイル」と呼ばれる基本のオイルに各種添加剤を組み合わせることで作られますが、粘度指数が高い高性能オイルが属する「グループIII(VHVI)」のベースオイルの大幅値上げと、添加剤などオイル製造に必要な原材料の高騰が価格上昇の主な原因です。これに加え、ロシアのウクライナ侵攻が国際原油市場に影響を与えたことも価格上昇の要因のひとつになっています。

原油価格の高騰対策をめぐっては日本政府内で協議され様々な施策が立てられていますが、先行きは不透明です。



with LIFE

特集

バイク業界、 激動の変革期

「脱炭素社会の実現」による「バイク2035年問題」を考える。

▼ This season's pickup!

ジリジリ迫る、猛暑トラブル・・・
ヒンヤリ対策でクルマを守る！

車検作業の パートナー工場 募集中



日本オイルサービス/キョクトーが受託した車検業務に対して、
受託可能な指定工場様・認証工場様を探しております。
弊社が設立した車検コールセンターのナビゲートに沿って
車検作業を進めて頂くシステムです。

お気軽に！

右記URL・QRコードよりお問合せください。
※業務の委託に際しまして条件等ございます。

<https://forms.gle/jLxuxRstXqjtc1DL6>





バイク業界、 激動 の変革期

New Topics !

バイクにまつわる新しい規制、
高まる需要と気になる未来の話。

2022年11月に国内のバイクに関する新たな排ガス規制が適用

今回の規制は世界で最も厳しい欧州の「EURO(ユーロ)5」と同等の規制で、排出ガスを浄化する装置の劣化を監視する機能＝車載式故障診断装置(OBD-2)の搭載が義務化されます。

デメリットばかりではない

OBD-2の搭載によって故障診断が容易になり、修理を行う側が修理やメンテナンスを効率的にこなすことが可能になり、修理待ちや入庫している時間が短縮されるというメリットがあります。またOBD-2から得られる情報を使ってアフターパーツの増加も予想されます。

新規制に対応していないモデルは2022年の2月時点で半分以上

バイク業界の一部では以前から注目を集めていた排ガス規制ですが、国内メーカーのラインナップで“絶滅危惧バイク”の情報も出回っており、駆け込み需要も多々ありそうな気配です。

排ガス規制は「EURO(ユーロ)6」でますます強化される?!

すでに北欧やイギリス、フランスなど世界各国でガソリン&ディーゼル車の販売禁止を表明しており、東京都も「脱炭素社会の実現」についての取り組みとして2035年までに都内で新車発売される2輪車すべてを「非ガソリン化」と発表しました。



新型車	▶	2020年12月~
継続生産車(51cc以上)	▶	2022年11月~
継続生産車(50cc以下)	▶	2025年11月~

ユーロ6	ユーロ5	ユーロ4	ユーロ3	ユーロ2	ユーロ1	規制
2024年	2020年	2016年	2007年	2005年	1998年	実施年
各種評価 によって 規定値を 策定	1.0g/km	1.14g/km	2.0g/km	5.5g/km	13.0g/km	CO
	0.1g/km	0.17g/km	0.3g/km	1.0g/km	3.0g/km	HC
	0.06g/km	0.09g/km	0.15g/km	0.3g/km	0.3g/km	NOx
	有	有	無	無	無	SHED検査
	OBD2	OBD1	不要	不要	不要	車載診断
	3.5万km	2万km	無	無	無	耐久検査

▲ 継続生産車は1年遅れで適応

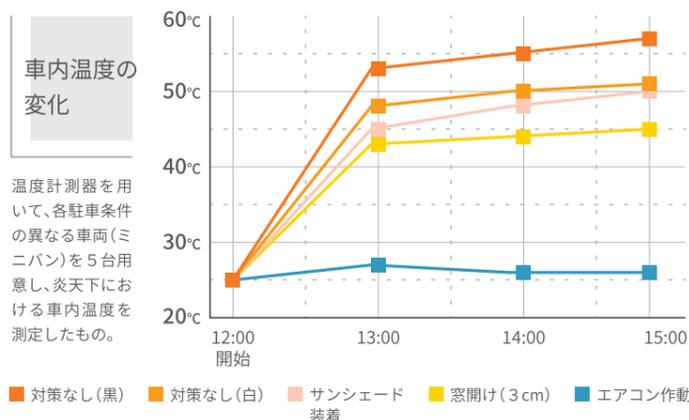
欧州では新型車への適用から1年後に継続生産車に適用される。ユーロ5相当の規制は日本で'20年末、継続車に'22年11月から適用。
※出典元:ヤングマシンWEB版 2020年 <https://young-machine.com/2020/07/24/115457/>

▲ 2022年も人気車が絶版になる可能性が?!
2020年は35年間販売されてきたセロー250が、2021年には43年の歴史を持つSR400が生産終了になり騒然となりました。

This season's pickup!

ジリジリ迫る、猛暑トラブル! ヒンヤリ対策でクルマを守る!

夏はクルマに関するトラブルが発生しやすい時期。



※出典元:真夏の車内温度(JAFユーザーテスト) 2012年
<https://jaf.or.jp/common/safety-drive/car-learning/user-test/temperature/summer>

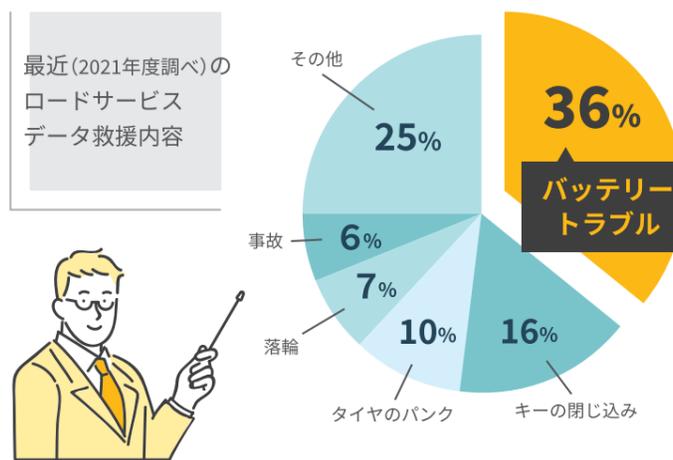
炎天下に放置した車は 車内温度が上昇!

熱くなったハンドルでやけどしたり、車内に置いてあった炭酸飲料ボトルやガスライターなどが破裂する原因にも!だからと言って暑くなった車内を冷やすためにエアコンを強く使っていると消費電力が大きくなり、バッテリーが上がるリスクが高まります。

オーバーヒートにも 要注意!

気温上昇とともにエンジンの熱を冷ますためのクーラント液(冷却水)の水温も上昇し、エンジンの性能低下や変形、ついにはオーバーヒートを起こすこともあります。特にエアコンを全開にしているとその可能性は高くなると言われています。

オーバーヒートは長距離移動や渋滞中などに起こりやすいので要注意です。



※出典元:セルフR41補修ブログ 2021年 <https://ezaki-web.jp/blog09/バッテリー点検していますか?/>

ATTENTION!

クーラント性能回復剤

Coolant One



高年式車や新車購入から
3年以上経過したお車に!

熱に負けない冷却性能を回復させ、新車時同様の性能状態にするという防錆・防食・消泡性能回復剤です。冷却水の交換回数を低減し、作業の効率化だけでなく環境保護にも貢献。

CHECK!



車内暑さ対策

日ごろから意識して暑さ対策に取り組みたいものです。

- 車用サンシェードで太陽熱をブロック。
- ドアをパタパタ開閉して風を通し、車内の熱気を追い出す。
- 断熱フィルムをガラスに貼ったり、電源不要の車用ソーラー扇風機も効果アリ。
- クーラント液が劣化していないか、量が少なくなっていないかをチェック。